

研究者：見越 葉介（所属：東京医科歯科大学歯学部）

研究題目：インドネシア歯科研修ツアー

目的：

本事業の目的は、歯科学生がインドネシア大学歯学部において、附属病院の見学や講義・実習への参加を通して、現地の歯科事情を知るとともに当地学生及びタイの学生と交流し、東南アジア圏での歯科医療ネットワークを形成する。また、現地の地域保健活動の見学、日本人学校での健康教育を通して、歯科学生としての海外での活動について計画・行動することである。

対象および方法：

対象：歯学科3年生7名

口腔保健学科4年生4名

期間：2014年8月27日～9月8日

場所：インドネシア（ジャカルタ，デポック），インドネシア大学歯学部（ジャカルタ校舎，デポック校舎），インドネシア大学歯学部附属病院，インドネシア日本人学校幼稚部

活動内容：

- ・大学附属病院の見学，地域歯科保健活動の現場視察
- ・インドネシア大学，チュラロンコン大学の学生との合宿研修
- ・インドネシア大学とチュラロンコン大学の歯学部生との学術交流会
- ・インドネシア在留邦人の幼稚園児を対象に歯科健康教育
- ・日本人学校保護者を対象とした歯科健康セミナーの補助
- ・インドネシアの開業歯科医院や歯磨剤メーカー見学
- ・スキルスラボでの実習
- ・インドネシア大学のPBL体験

結果および考察：

<インドネシア大学歯学部附属病院見学>

インドネシア大学のキャンパスはジャカルタとデポックの2カ所に分かれており，デポックにある歯学部と，ジャカルタにある附属病院の見学を行った。附属病院は東京医科歯科大学附属病院と同様に各診療科に分けられており，ユニットなどの設備も本学とほぼ変わらない印象を受けた。インドネシア大学附属病院では，専門医教育と，歯科学生の臨床実習が，指導医の下で治療が行われていた。ハイレ



附属病院見学

ベルな歯学教育を行っていることが身をもってわかった。

< 3か国の歯学部学生との合宿研修と学術交流会 >

研修の数日間はインドネシア大学、本学の学生だけでなく、夏休みを利用してタイからチュラロンコン大学の学生も加わり、3か国の歯科学生と一緒に滞在して研修を行った。少人数のグループに分かれて歯科教育の在り方や理想的な歯学教育について英語で話し合い最後に発表を行った。タイとインドネシアの学生の英語力の高さと熱心さに圧倒されたが、大変刺激になった。カルチャーナイトでは各国の伝統的な踊りなどの発表を行った。私たちは本学紹介ムービーを作成し、浴衣を着て盆踊りの発表を行った。この交流を通して、各国の学生と勉強以外でも学生交流をすることができて、とても有意義な会であった。



3か国でのディナー



カルチャーナイト



インドネシアの民族衣装

< 幼稚園での歯科健康教育 >

私たちはインドネシア在留邦人の子どもが通う幼稚園に行き、歯科健康教育とTBI（口腔衛生指導）を行った。歯科健康教育は事前に幼稚園児が楽しめるようにアンパンマンのパペットを使った人形劇を通して行った。4歳と5歳の幼稚園児になるべく易しい説明をしようと心掛けたが、小さい子どもに対して何かを伝えるという難しさを実感した。4歳児と5歳児では理解力と話を聞く力に驚くほどの違いがあり、5歳児相手の発表ではスムーズに劇を進行できたが、4歳児の劇ではなかなか思うような発表ができなかったことは残念である。この経験を通して、何かを伝えたいときは、伝えたい相手の年齢、性別などを考慮した話すことが大事なのだということを学んだ。

< 開業歯科医院、歯磨剤メーカー見学 >

ジャカルタ市内の開業歯科医院を見学した。その歯科医院では患者にとって快適な治療をすることを重要視していた。そのため、患者に圧迫感を与えないように歯科医師が私服を着用して治

療を行うなど画期的な方法が用いられていたことが印象的であった。歯科医師たちの患者に対する丁寧な態度に感銘を受けた。

また、ショッピングモール内に併設している歯磨剤メーカーのワークショップの見学を行った。この施設では、歯や歯の病気に関する展示やブラッシング指導、歯科医師による健診を行っていた。口腔内カメラなどの最先端技術を用いた展示やブラッシング指導はとてもわかりやすく、一般の人にも興味をもってもらえるような工夫が凝らされていた。日本にはこのような病院以外の身近に立ち寄れる歯に関する施設が少ないため、新しい方法に感心した。

< PBL・スキルスラボ見学と実習 >

デポック校舎でのインドネシア大学歯学部3年生の講義に参加した。日本のような大教室での講義形式はなく、学生約10名につきチューターの先生が一人つくPBL形式であった。内容は補綴学であったが、学生はテーマだけを与えられて、何について学ぶかについては学生自身で話し合っていて決めて、次回までに各自が調べて、次の回で各自が情報を持ち寄って学んでいくという、完全に学生主体の方針であることに衝撃を受けた。先生は授業中にほとんど学生の話し合いには口をださず、最後に足りない点を補足するのみであった。私たちも初回と次の回に参加し、学生と一緒に放課後の調べものなどをしたが、彼らのモチベーションの高さと、知識量には圧倒された。さらに、講義中はすべて英語で統一されており、語学力の重要性も再認識した。

デポックキャンパスには学生の実習用にスキルスラボも設置しており、ファントムと顎模型を



スキルスラボ見学



スキルスラボ実習



グローバルリトリート発表会



修了式

用いてより実践的な実習を行えるような環境が整えてあった。私たちもスキルラボでワイヤーとプレートを用いて歯を固定する顎間固定を体験実習した。また、スキルラボ以外にも模擬診療室やユニットなども現在設置中のようで、設置したばかりの部屋も見学することができた。

成果報告：

インドネシアにおける研修の報告書を作成した。また、本学で開催された国際シンポジウム（平成 26 年 10 月 24 日開催）で、本研修についての成果発表を行った。